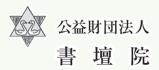
#### 吉田苞竹創刊



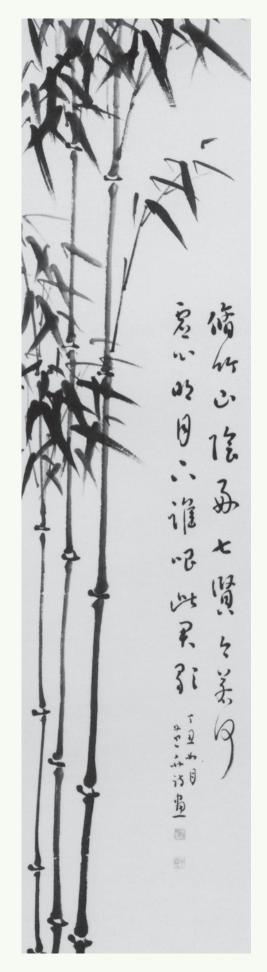


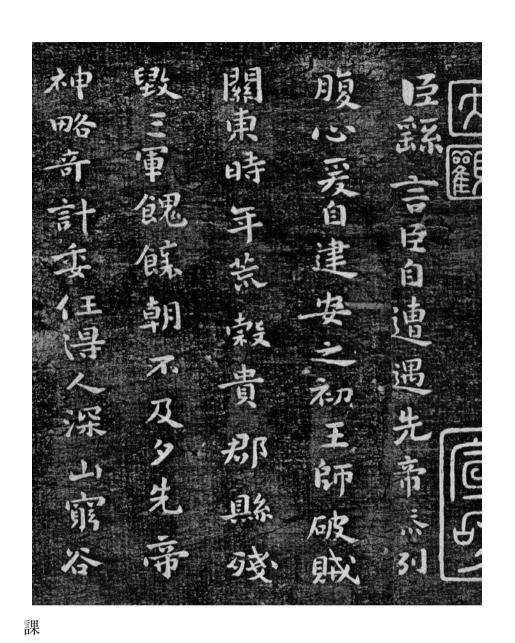
令和四年(2022年)

#### 十二月号



公益財団法人書壇院は、書道の研究、教育及び普及に関する 事業を行い、書道芸術の高揚と精神の修養、人格の陶冶を図る ことを目的としています。





腹心。

爰自建安之初。

王師破賊

臣繇言。

臣自遭遇先帝。

忝列

毀。 神略奇計。 關東時。 三軍餽饟。 年荒穀貴。 委任得人。 朝不及夕。 郡縣殘 深山窮谷。

先 帝

(漢字臨書規定 = 8頁)

題 半紙=先帝神略奇計(六字)半切=臣自より殘毀まで(三十一字)





# 閲覧のお誘い

長なが

澤さ

幽ら

算さ

年の『書壇』が目にとまりました。昭和二四年一二月五日発行の一二月号 科半紙課題は爨龍顔碑の臨書です。 生が揮毫し、 興福寺断碑と続きます。半紙の課題参考手本は山下涯石先生と近藤秋篁先 字唐詩七律、そして吉田苞竹先生臨の九成宮醴泉銘、 先生、前本菁竹先生の半切作、高塚竹堂先生書のかな、松岡東庵先生の小 (第二百五十一號)、A5判で僅か三二ページ (定価三五円) のものです。 先日、 表紙を開くと、まず高等科条幅課題の米芾書李白詩の拓、 家で古い『書壇』を見ていたところ、私が生まれた年、 佐藤示右(祐豪)先生書の手紙文も掲載されています。 同じく苞竹先生臨の 順に山下涯石 昭和二 研究

道をお互い切磋琢磨して進んでいけるのは幸せなことです。 ると、萬象先生は良きライバルであり仲間であったのでしょう。 は二四歳の熱気溢れる青年です。以前、大野先生から伺ったお話から察す な戦い?の跡を見ることができます。お二人は大正一五年に生まれ、当時 お名前が並んでいます。 一○ページから各科の優秀作品の掲載が始まります。懐かしい先生方 わが師大野篁軒と、同い年の西川萬象先生の熾烈 同じ書の

後間もない物資の乏しい時期での出版を考えれば、その紙面からは当時の ません。現在の『書壇』からは想像できないほど小さな薄い雑誌ですが、戦 書壇院の熱気が伝わってきます。 かなり辛口ですが、その講評が出品者の負けじ魂に火を付けたに違いあり また、写真判の作品とその講評を見比べるのは、更に興味深いことです。

書壇院の閲覧室には、創刊号からの『書壇』 かがですか。 実際に手にとってご覧になりませんか。閲覧に足をお運 が揃っています。

#### 温年 書 壇 + 一月号 目次

表紙 = 書壇院蔵 吉田苞竹画

第八十九回書壇院展公募要項	第一二二回審查会員遊苑	上位・極位・雅位試験規定	書壇院 日本文の書展Ⅰ期・Ⅱ期	篆刻入門 益滿 丁 盦:	日本文······· 平 井 侗 子·鈴 木 啓 佳·	野 静 代・池	漢字臨書規定 片 野 錦 秋・松 下 蕙 苑:	南画規定 岩 﨑 桂 花:	かな規定 平 井 侗 子…	漢字規定 町 田 玄 洞:	競書課題	柴田李笙·小林尗瑛	保 山・順 惠・爽 翠・裕 子	同人参考手本 鳥 海 紅 蘭・勝 山 菁 梅:	巻頭言 長澤 幽 篁:	古典研究	題字 集鄭道
i i 19	: : 18	i i 16	i i 12	盦 :: 11								-				表 2	集鄭道昭書

鳥 海 紅 蘭 書

こころざしをはたして、 いつの日にか帰らん、 山は青き故郷。 水は清き故郷。

(ふるさとの唄)

勝 山 菁 梅 書

戴復古詩-

天 酒 黄 動。 浦。 同 驚 舟 飛ス 有, 白 佳 鷺 <u>±</u> 羣。 擁」と対 被 ヲ 霜 共二 濃<sup>ヵルコト</sup> 似 論ズン文。ヲ 雪二 水 氣 (名詩類選評釋) 盛ンナリ 於 雲ッ・市 遠<sub>ク</sub>タデテ 炭 增,

價。

高野辰之詩—

#### 同 人 参 考 手 本 半 紙 一競書の参考としてご活用下さい―

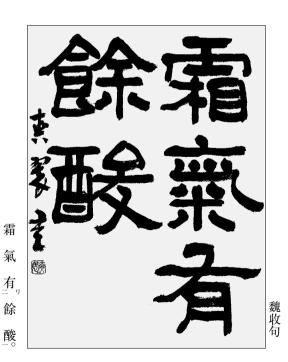


渡邉保山書

陶淵明句

山里は、冬ぞさびしさ まさりける 人目も草もかれぬと思べばれ

渡 部 裕 子 書



山 村 爽 翠 書

#### 同 考 手 本

2尺×6尺額用

小

林

尗

瑛

書

背 看, 過,淡 松 竹, 青。キョ (漱石漢詩の世界)

澗

上,

煙

横点

古

驛二

峽

中,

白

日

照言言 荒

亭 - o ヲ

蕭

條

+

里

南

山。

路。

馬

用紙

留マリ房ニ 海 子 上 卿, 節 歸。 毛 稀。 幾タビカ (高青邱全詩集) 望』 南 鴻 近yer 塞 飛 o<sub>ブ</sub> 泣,

盡ス

白

頭

相

別ルルノ

淚。

少

卿, 丁

筆 用 紙 蘭亭牌棉料単宣 唐筆・中鋒二号

和画 和筆・中鋒三号 仙

高青邱詩

夏目漱石詩—

柴

田

李

笙

書

# 十一月三十日締切(草書)

### 漢 字 規 定

半紙縦書

銀 吐 靑 烟 上位・準上位課題

銀燭青烟を吐き春夜友人に別る様子記をはるために別る

春夜別友人

金尊綺筵に對す

金尊對綺筵

銀燭吐青烟

離堂琴瑟を思ひりだうきんしつ おも

離堂思琴瑟

別路山川を繞るべつろさんせん めぐ

別路繞山川

明月高樹に隱れめいげつかうじゅかく

明月隱高樹 長河沒曉天 長河曉天に沒す

悠悠洛陽去 悠悠として洛陽にいるいか

此會在何年 か在らんとうない。

玄位~六位課題

彈 復 長

(琴を弾じ復た長嘯す)

になる。 琴を弾じ、 また歌をうたってよい気分

復

参考手本 玄位~六位 町ま 囲だ 玄げん 洞さ 書

彈 偏旁の距離を適度に保ち、 上部から下部に移る線に「今」の一画目を 偏は低めに。

単純な形なので切れ味の良い線質で。

長―最初の右上から左下の線に長さが必要。 旁の縦線は上に突き出す形もある。

次号課題 (予告) 48頁参照

#### か な 規 定

半紙縦書

極位・準極位課題

暮れてゆく 年と共にぞ 別れぬる道にや春は逢

源 為善)

はむとすらん

妙位~6位課題

眠りたり 遠山おろし かさなりて 四方の枯山紫の枯水 來

釈 迢空)

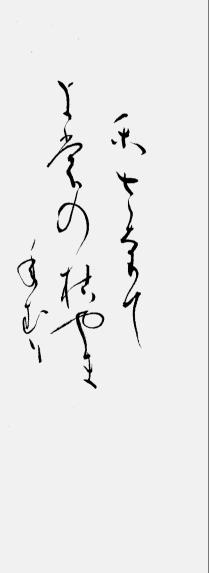
る音のする

次号課題(予告) 48頁参照

文字の大小を考えて書きましょう。

※かな漢字相互の変換、ちらし自由。落款は○○かく+印。

参考手本 妙位~6位 平井侗子書



### 南 画 規 定

※横三十五センチ、縦二十七センチ(小画仙 紙半切五分の一)の用紙を横に揮毫のこと。

# 南画初学講座(一一七)

﨑

桂

花

梅もまず花の描き方に始まり木や枝を学び、花と組み合わせてからも七度 岩

目になりましたので立派な花が咲いたことと思います。

も濃い所は程々になるように気をつけてください。 せて幹や枝もあまり濃いところが多いと梅花の方が目立たないので、木の方 場合白ですから、あまり濃い墨で描くと上品な花になりません。それに合わ 木の大きさと花の大きさのバランスや濃淡が難しいと思います。花はこの

画賛は「一花開天下春」です。



### 参考 大久保楓紅画



次号課題(予告) 48頁参照

# 十一月三十日締切

表 用 云下奏 枝を問題

### 十一月三十日締切 漢 字 臨 書 規 定

#### 小 画 仙 紙 半 切 半 紙 縦 書

参考資料 表紙内側

鍾湯 経ま 書 ―薦季直表

れています。

す。

線に抑揚があり、表現が多様で変化に富

んでいます。字形は扁平で幅広、行書的な用



片た 野の 錦え

明帝に仕えました。建国の功臣として重く用 字は元常。初め後漢に、次いで魏の文帝、紫がは、けんじょう 楷書、八分、行書の三体を能くしたと伝えら いられ、卒して成侯と諡されました。書は、 鍾繇(一五一―二三〇)、河南穎川の人、

鍾書の特徴をよく示したものとされていま もっとも古意を感じさせ、隷意のある用筆で 文で、先帝(曹操)の時に功績のあった 芝)の絶有り」とあります。 り書を善くする者、漢魏に鍾張 内侯季直」を推薦したという内容です。 表す。」とあります。魏の文帝に奉った上表 (二二一)八月日、司徒・東武亭侯・臣鍾繇 九行、行一〇―一二字、文末に「黄初二年 課題は薦季直表(薦関内侯季直表)。小楷 鍾繇作と伝わる多くの魏晋小楷の中で、 書譜(唐・孫過庭)の冒頭に「夫れ古よ 関

秋り

帖を詳細に観察した上で、調和を図りながら 臨書いたしましょう。 は重厚に運筆します。小さな文字ですが、原 ゆったりと、強いが温かい感じに、また終筆 筆も見られます。横画は細めに、縦画は太く ※張芝……後漢・草聖と称された。

半紙参考手本(上位~六位)

松っ

下た 恵は

苑☆ 臨

片 野 錦 秋 臨 半切参考手本(上位~六位)

# 荒穀貴那縣殘毀 \$ ★ \$ \* \* \* \* 建安之初王師破賊關東時年 臣自遭 先帝忝列腹心爰自

次号課題(予告) 48 頁参照

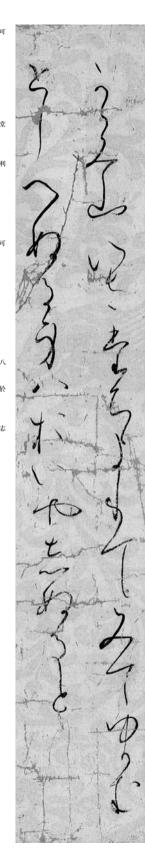
### 十一月三十日締切 か な 臨 書 規 定 巻子本古今集 二十 四 半 紙 縦 半

極位~2位

左を半紙縦半切に臨書すること

(二玄社 日本名筆選<sup>®</sup> P.37 P.38

切



かゞみ山 いざたちよりて みてゆかむ としへぬる身は おいやしぬると

ましょう。今月で巻子本古今集は終了となります。 印象に残ります。二行目は連綿に単体を交えて緩やかに筆を運び、終字との終筆は上向きで収めます。原本をよく観察し何度も練習してから書き 書かれた歌二行が響き合い、穏やかな雰囲気を呈しています。書き出しは字間を詰めて小振りに、二句目は思い切り伸びやかに。特に縦長のてが・ 今回は鏡山を鏡と見立てて、立ち寄って老い行く身を写し見て行こう、と詠んだ翁の歌が課題です。筆先を利かせ、多種多様な手法を駆使して (星野静代)

3位~6位参考手本 池 澤 有 紅 臨

# 3位~6位



#### 文 本 11月30日締切 日

①条幅規定 半切タテ 参考手本 平 井 侗子 書

# とではかに澄かはなる なまうた

調和に苦慮しました。

歌を読んでひらめい

雪ぐもり

りたる

ひくく暗きに ひんがしの 空ぞはつかに 澄みとほ

(斎藤茂吉)

②半紙規定 タテ



参考手本

鈴木啓佳書

雁行の 0) 寒さかな ととのひし天

(渡辺水巴)

③半紙随意

書体・文言自由。半紙ヨコ

## 予 告 一月五日締切課題

半紙・条幅規定 手本参照

半紙随意 半紙タテとする

日本文の級位を書くこと。著作権に注意すること。

条幅規定 タテ 菊田竹子書

うとしてもいは命なったり はいらればをしい為ならな

ものは 半紙規定 世にあれば 命なりけり ヨコ ことしの春の 花もみつ (本居宣長) うれしき

加藤玲 香書

高し くぐり見る 松が根

春の雪 (杉田久女)

## 篆

(三三七)

(応募作品アドバイス)

滿み 丁で

益ま

禽ぁん

○堀流芳さん、見事な作品です。

今月の課題は「金石交」でした。今月の課題は「金石交」でした。 字で分けるか、三文字を横に並べるかですが、前二者の場合、見せ場となる一文字をどれにするかで答えが決まるようです。作例は疎画の金を一文字をどれにする際密を強調しましたが、比して密画の金を一文字で立てて全体密画の金を一文字で立てて全体のバランスを取ることも章法として用いられる感覚です。

形は出典が見当たりませんでした。仮に何らかの字書にこした。仮に何らかの字書にに接する形にした方が穏当だに接する形にした方が穏当だに接する形にした方が穏当だと思います。 と思います。 たず意ある白文印になりました。 線質も真に活きておりました。 線質も真に活きておりませんで はない方が良かったです。

○印は3㎝以内、

摹刻は原印大と

します。

○随意

(または摹刻を含む)

○規定「畫餠」

十一月三十日締切課題

※出品票を貼ったバーコード券を ○51・52頁応募規定をご覧下さい。

必ず貼付して下さい。

規定参考

益 滿

丁 盦

作

摹刻参考







菅波 旭霜



月五日締切規定予告

意

あり、原印に迫るものがありす。一本一本の線にも生気が)菅波旭霜さん、見事な摹刻で>>| ション | シェン | ション | ション | ション | ション | ション | シェン | ション | シェン | ション | シェン | シェン

春果

福島

代馬丞印